

# 水曜通信 26

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年  
10月

## 第26回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年10月16日（水） 18:30-19:00



説教：フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ  
（ミュンヘン大学名誉教授）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.N. ハンプ「神は高きやぐら」

讃美歌：267番「神はわがやぐら」

聖 書：マタイによる福音書 16章13節-20節

讃美歌：290番「よろずを治らす」

説 教：“Our Faith in Jesus and His Belief in Us”  
「イエスを信じること、イエスが私たち  
を信じること」

頌 栄：539番「あめつちこそぞりて」

後 奏：O.ディーネル「神は高きやぐら」

後奏の後、リコーダー（曾根レイ）と通奏低音  
（門脇壮）による賛美を行ないます。

次回第27回水曜礼拝は11月20日です。

## 第25回 水曜礼拝報告（説教：大西 晴樹、奏楽：今井 奈緒子）

2019年9月18日(水) 18：30-19：10

讃美歌：39番「日暮れて四方は暗く」第1,3,5節

聖書：マタイによる福音書 13章1節-9節

讃美歌：讃美歌21 53番「神の御言葉は」

説教：「シュネーダー先生の理想」

頌栄：540番「みめぐみあふるる」



### 【説教要旨】

東北学院の3人の校祖の一人であるデイヴィッド・シュネーダー先生の理想とは何かについてお話しました。シュネーダー先生の数ある著作の中でも、1917（大正6）年の第6回教育同盟総会において発表された「日本の基督教教育総合指針」は、キリスト教による人格教育とは何かを説明している点において、卓越した報告書です。そこで、シュネーダー先生が説く「あるタイプの人間」（a certain type of men）には、「物事を深く考えるプラグマティズム」ともいうべき理想が示されており、その半生を儒教主義のもとに過ごしてきた日本人指導者にはない輝きを放っています。東北学院が、聖書箇所という「良き土地」であり続けるためには、先生の理想を継承し、建学の精神に堅く立つことが大切ではないでしょうか。（大西晴樹）

前奏：H. パリー「Eventide タベ」

後奏：今井奈緒子 コラール編曲「扉を開きて」

前奏には最初に皆で歌った讃美歌39番「日暮れて四方は暗く」に因み、この讃美歌が作られた同時代の英国の作曲家でバッハ研究家でもあった、サー・ヒューバート・パリーのヒム前奏曲を選びました。後奏は、17世紀のドイツ改革派牧師J.ネーアンダー作詞作曲による讃美歌21の第3番（讃美歌第61番）の、今井による平易な編曲でした。（今井奈緒子）



礼拝とその後の19時10分から40分までの今井奈緒子（本学教養学部教授）のオルガンと菅英三子氏（東京藝術大学教授）の独唱による賛美に120名の市民が参加されました。

### 礼拝後の独唱とオルガンによる賛美

今から10年前、菅英三子さんと盛岡市民文化小ホールで、讃美歌21によるCD《ガリラヤの風かおる丘で》を録音しました（日本基督教団出版局刊）。以来、東北大学100周年や、かつて菅さんの父上が牧っておられた仙台北教会での演奏会等でご一緒させていただいています。私達は同い年で、9月に共に還暦を迎えました。この日は讃美歌から「ガリラヤの」と「球根の中には」「我をも救いしAmazing Grace」、マスカーニのオペラ《カヴァレリア・ルスティカーナ》より「アヴェ・マリア」、フォーレの《レクイエム》より「ピエ・イエズ」、ヘンデルの《メサイア》より「重荷を負う者は」、そしてA.H. マロットの「主の祈り」が、清澄にして表現深く歌われました。帰天されて間もない愛する母上にも届くことを願いつつ伴奏しました。（今井奈緒子）



最後に讃美歌21から60番「どんなにちいさいことりでも」（菅千代作詞、広瀬量平作曲）をみんなで歌って、菅先生のお母様の信仰に満ちたお働きに感謝いたしました。

## — ランカスター神学校での発見 (11) —

### 「バーソロミューのアルバム」

ランカスターでの資料調査はこの夏で2回目となりますが、今回はアルバムやスライド、動画フィルムとして保存されている映像資料を中心に調査を行いました。

まずご紹介したいのは、1910（明治43）年に改革派教会伝道局幹事として初めて来日したバーソロミューが撮影した写真を収めたアルバムです。バーソロミューは、創立者押川方義が1889（明治22）年に欧米視察をした際に英文による押川伝 Won by Prayer を執筆したほか、ホーイとシュネーダーにとっては、常に良き理解者として彼らの働きを支え続けた心の友のような存在でした。



ホーイ(右)とシュネーダー(左)と共に

来日当時、ホーイはすでに中国伝道に献身しており、バーソロミューは始めに中国を視察した後、3月下旬に仙台を訪れます。約2ヶ月にわたる視察の内容は、100枚の写真と共に詳細に記録されており、貴重な資料です。なお、中国伝道についても同数の100枚の写真が全く同じ体裁のアルバムに貼付されています。バーソロミューが幹事としてホーイとシュネーダーの働きを同等に評価していたことがうかがえます。



バーソロミューのアルバム

（東北学院史資料センター

日野哲）

## — 建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から (3) —

9月23日～25日にかけて、秋田県立大学より、石山智准教授、大塚亜希子助教、ならびに学生4名が調査のために来校しました。調査の目的は、礼拝堂の外壁に用いられた秋保石の力学的特性や劣化状況を評価することでした。実物試料を採取できない文化財建造物の調査は非破壊が前提となりますが、凹凸の多い石材表面から内部構造を推定するには先端的な設備と技術が必要です。そこで今回は、石切場から切り出して間もない新しい石材と礼拝堂外壁とを超音波伝播速度法を用いて相対評価し、礼拝堂外壁の空隙増加率から内部構造を推定する手法を採用しました。現在、得られたデータの解析を行っています。結果が待たれます。

（崎山俊雄）



秋田県立大学による外壁調査の様子



90年前に礼拝堂の外壁を切り出した石切場(秋保石)の現在

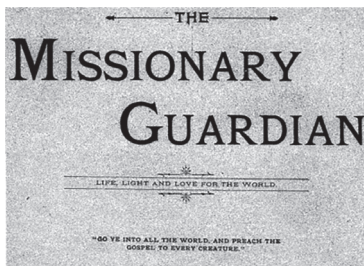


## 2019年度 ランカスター神学校調査報告

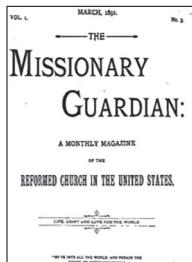
昨年度に引き続き、今年度も8月から9月にかけて、東北学院の起源を探るために3名の調査員がアメリカのランカスター神学校に派遣されました。

### 「3Lについての調査」

東北学院の建学の精神、「Life, Light and Love for the World」は、The Missionary Guardianという米国改革派教会（通称ドイツ改革派教会）の伝道に関する月刊誌の表紙に記されたモットーです。この表紙のデザインは1891年1月から1896年7月までの最終刊に至るまで変更されませんでした。その点で、この教会の人々の伝道に対する意識は、このモットーを掲げて一貫して前進しようとしたと言えます。改めてこの標語の重みを感じさせられます。今回の調査は、特にこの用語がどのような背景で人々に受け止められていたのか、どこにそのような証言があるのかを直接資料にあたって精査しました。詳細は10月3日の報告会で行います。関心のある方はお越し下さい。（野村信）



### 「ドイツ改革派の宣教雑誌：Missionary Guardian」



Missionary Guardianの表紙。下部に本学の標語と同じLife, Light and Love for the Worldとある。

Letter from Rev. W. E. Hoy.  
*Dear Doctor Callender,—The fatigue of a walk of twenty miles might be excused enough to retire early this evening, my heart is so full that I must have another "chat" with you. As there was no regular engagement for me this Lord's Day, I strolled forth early this morning in search of something to do for the Master. Ten miles up through the hill-country, north of Sendai, I strolled in contemplative mood, in full communion with the visible forms and the invisible spirit of nature. The sun was painting the hills and the coniferous*

仙台のホーイ宣教師からの手紙なども紙面で紹介されている。

今回の調査目的は、ドイツ改革派ミッションが日本伝道と並行して隣国である朝鮮への伝道にも関心を寄せていたのかを示す資料を探すことであった。過去の調査で本学初代院長の押川方義が朝鮮伝道に関心を寄せていたことは判明しているが、これをドイツ改革派ミッションも支援していたのかは未解明であるからである。

今回の調査を通して、ランカスター神学校図書館に所蔵されていたドイツ改革派の宣教雑誌 Missionary Guardian をコピーすることができた。同雑誌は東北学院創設期と重なる1891年から1895年にかけてドイツ改革派の海外宣教の様子を教会関係者に伝えるために出版されたものであり、当時の国内外の宣教活動の様子が詳しく報告されている。これを読み進めることで、ドイツ改革派ミッションの朝鮮伝道への関与も見えてくるかもしれない。

(松谷基和)

※日野哲氏の調査報告については、前頁のランカスター神学校での発見（11）をご覧ください。

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
第26号

2019年10月9日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/